阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業　新潟県

第２号
2010.3.14

阿賀野川 え～とこだより
aganogawa E-toko dayori

阿賀野川の寒ヤツメ漁（東区　一日市）　撮影：山口冬人（NPP新潟県写真家協会理事）　協力：大形漁協

もくじ

ロバダン！特集 ―― 2
「新潟水俣病と阿賀野川流域の現在（いま）」
阿賀野川流域ロバダン！マップ ―― 2
そもそも「ロバダン！」って何？ ―― 2
それぞれのロバダン！ ―― 4
ロバダン！が紡ぎ出した
ＦＭ事業の方向性 ―― 6
ＦＭ事業の紹介
「縁の下の力持ち」資料整備チーム ―― 7
地域再発見講座（第２回）ほかお知らせ ―― 8

地域の光と影に向き合う舞台、阿賀野川流域地域。

自信と誇りを持って流域の宝もんを伝えるために。

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（ＦＭ事業）を本格的に展開し始めて１年以上経ちました。この間、多数の人々からご協力をいただいたおかげで、パネル展やロバダン！の開催など、流域各地で多彩に展開することができました。

ロバダンで流域の様々な人々と語り合う機会が増えるにつれ、これまでの関係者の話や多くの報道からは伝わってこなかった新潟水俣病に対する見方や感じ方などが、地域や人によって実に様々であることに気づかされました。

同時に、流域に溢れる宝もんの数々を、堂々と誇りを持って語り伝えていきたいのに、それがなかなかできないでいる「ためらい」にも似た思いを、流域の多くの人々が共通して抱えていることも感じ取ることができました。

そのことをもう少し深く探れば、ＦＭ事業が進むべき方向性が見えてくるのではないか？と考え、今号では流域各地で開催したロバダン！を特集しました。

総合プロデューサー　小川弘幸

ロバダン！特集

新潟水俣病と阿賀野川流域の現在（いま）

新潟水俣病に向き合い、
それを乗り越える流域づくりを目指して始まった
「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（FM事業）。
これまでなかなか伝えられてこなかった
新潟水俣病と阿賀野川流域に対する
人々の様々な思いを、流域各地で開催した
「ロバダン！」を通じて探りました。

ロバダン！

そもそも「ロバダン！」って何？

流域の方々にFM事業を知ってもらい、流域の方々との接点を探るため、各地で開催している「少人数の寄り合い」のこと。炉端に集まって談義するイメージから、「ロバダン！」と名づけました。

●楽しく気楽に車座で！
●地元のうんめぇもんを食べながら！
●自慢のこき合い、駄弁り合い

ロバダン！では、本音で深く語り合えるよう、お互いの顔が見える少人数で、気楽に話せる雰囲気づくりを大切にています。

「ロバダン！」は
まだまだ続きます。
あなたもぜひ！
まずはお気軽に
事務局まで。

阿賀野川流域ロバダン！マップ

ロバダン！開催状況（平成21年4月～平成22年2月）が一目でわかるマップです。地域の方々をはじめ、市民活動グループや商工会、観光業、農家、学校、行政関係者から参加をいただくなど、地域も職種も年代も実に多彩！ 参加してくださった流域の皆さん、本当にありがとうございました！

ロバダンキックオフin阿賀町 ～ここからロバダンが始まった～
4月17日●阿賀町津川「塩屋橋」

歴史を知ると、変哲のないものが違ったものとして見えてくる。だから、「え～とこだ」探しは面白そう。

●会場となった塩屋橋さんからは、後の草倉銅山ツアーなどで大変お世話になりました。

1

草倉銅山坑夫の墓を守る鹿瀬の龍蔵寺ロバダン
6月24日●阿賀町鹿瀬「龍蔵寺」

公害の発生には必ず「光と影」の面があるのに、マスコミなどではもっぱら「影」の部分しか語られてこなかった。

●草倉銅山ツアーの案内ガイドを担ったり新たなロバダンへつなげて頂いたり、多大なご協力に感謝！

2

阿賀野川を愛する「カッパの会」新津の中新田ロバダン
7月10日●新潟市秋葉区中新田

危険だからと近づけなかった阿賀野川を、もう一度遊べる川にしたいと思い会を作った。

3

大地との絆を紡ぐ職人たち安田商工会ロバダン
7月30日●阿賀野市安田商工会

新潟水俣病は学校で習った記憶はあるが、マスコミで地元のことが報じられても、身近なこととして感じられない。

4

古民家館「みちくさ」で語り合う五泉の土堀・四ツ屋新ロバダン
8月16日●五泉市土堀

当時、五泉からも多くの人が昭和電工へ通勤していたので、新潟水俣病のことを語れる雰囲気になかった。

5

新潟東区の歴史と文化を学び楽しむ「大形ちいき楽会」ロバダン
8月20日●新潟市東区大形

地域の歴史を丹念に掘り起こし、人の輪を広げながらまちづくりにつなげている。

6

地域の方々の健康を守る流域保健師ロバダン
9月1日●阿賀野川流域（安田支所）

新潟水俣病の件で訪問すると様々な思いを語ってくれ、今まで知らなかった地域の実情が判り驚いた。

7

こだわりの農産物をつくっている五泉の巣本ロバダン
9月11日●五泉市巣本

阿賀野川の恵みを受けた自慢の農産物を、いつか「阿賀野川ブランド」として売り出したい。

8

流域の光と影をどう教えてきたか流域小・中学校教諭ロバダン
9月15日●阿賀川流域（安田公民館）

新潟水俣病の教育は現在では個人まかせだが、教材を作成するなど、誰もが教えられる環境整備を。

9

「ござれや」精神で町を盛り上げる新潟北区の松浜ロバダン
9月30日●新潟市北区松浜

昔は新潟水俣病について話せる雰囲気ではなかったので、今の若い人たちは知らない人が多い。

10

阿賀町の観光を変える新しい動き阿賀町観光関係者ロバダン
10月16日●阿賀町麒麟山温泉（福泉）
10月26日●阿賀町三川温泉（湯元館）
10月28日●阿賀町草倉銅山（現地視察）

地元の人々が、自分たちの町のモノ・コト・歴史を自分たちの言葉で語れるようになれることが大事。

●このロバダンから、旅館やホテル、温泉などを巻き込み、草倉銅山パネル巡回展の開催へ！

11 12 13

阿賀野川の恵みと共に生きてきた新潟東区の大形漁協ロバダン
11月19日●新潟市東区大形漁協

今でも、鮭やシジミ、ヤツメウナギなど、阿賀野川は季節ごとに様々な恵みをもたらしてくれている。

●組合長さんの紹介で、ヤツメウナギ漁に同行できました。今号表紙に注目！

14

阿賀野川と地域の思い出を語る新潟東区の津島屋ロバダン
2010年1月19日●新潟市東区津島屋

この地域では、阿賀野川の魚をどの家でもいつも食べていたように、阿賀野川と地域の生活は密接につながっていた。

15

昭和電工と鹿瀬のあの頃を聞く鹿瀬昔語りロバダン
2010年2月24日●阿賀町鹿瀬

昔は、鹿瀬の学校、幼稚園、武道館、公衆浴場、水道管などなど、すべて昭和電工が整備してくれた。

16

ロバダン！特集

それぞれのロバダン！

～FM委員の目から見えたもの～

各種ロバダン！には、「阿賀野川え～とこだプロジェクト」（FM事業）の推進委員（FM委員）に参加してもらっています。FM委員がロバダン！に参加して見えてきたものとは？3名のFM委員からリポートしていただきました！

阿賀のほとりで、共に生きる

FM委員：旗野　秀人

1950年生まれ。阿賀野市（旧安田町）在住。旗野住研取締役専務。新潟水俣病安田患者の会事務局も務め、冥土のみやげ企画を主宰する。

阿賀のほとりに生まれ育ち、還暦を迎える私が水俣病事件を知ったのは二十歳を過ぎてからだった。それまでは他人事と思っていたが、縁あって川筋に足を運び始める。5年前、新潟水俣病公表40年の節目の年にその記念行事を初めて新潟県と共にする。そして、その後も一緒にいい仕事がやれる予感がした。

これまで出会えなかった流域の人々

それは今回のロバダン（炉端談議）で流域の市町村を訪ね、これまで出会えなかった人たちとの交流を重ねる中で確信になりつつある。

上流の昭和電工のあった鹿瀬では開口一番、水俣病の話は禁句と言われたものの草倉銅山の話から始まって、これまで誰も聞いてくれなかったと堰を切ったように語ってくれた。

当たり前のことだが、いろんな立場の人が居て、それぞれにとって大事な暮らしの場であることを学ぶ。

下流では若い商工会の皆さんに町おこしの熱い思いを聞かせてもらえたが、今でも裁判が行われている現状を知らないのには驚く。これは私の住む安田でのロバダンでも同様で、小学生の時に四大公害のひとつとして新潟水俣病を習ったものの、足元の今を知る者は居なかった。

患者多発地域の町おこしNPOで活躍する公表当時をよく知る人は「自分でも何かせねばと思っていたが、気がつくと苦手な運動団体が取り巻いて、関わる機会を失ってしまった」と言う。

立場や年齢を超えた地域づくりへ

あらためてこのロバダン巡りで、阿賀のほとりには千差万別、いろんな人が居てそれぞれが故郷を思い、活躍している人たちが大勢いることがわかった。このそれぞれの力が緩やかでいいから繋がりあえたらと思う。

患者団体も長い年月の中でいくつか出来たが、うまくコミュニケーションが取れていない現実もある。それでも今回のロバダンでそのほとんどの皆さんと会って話を伺うことが出来たのは新潟県の事業のなせる技と思った。一歩先を行く熊本県とはまた違う、新潟らしい展開になる新たな予感がする。

「水俣病にはなってしまったが生きていて良かった」と、言って貰えるような「共に生きる」町づくり人づくりが、立場や年齢を超えてようやくスタートラインに立った。

少しずつ少しずつ

FM委員：里村　洋子

1946年生まれ。新潟市北区（旧豊栄市）在住。エッセイスト、「農民文学」会員。

「新潟水俣病の話は禁句です」

ロバダンで初めて鹿瀬にお邪魔した時、こう言われた。やはり…と思った。私が鹿瀬に住んでいればきっと同じことを申すだろう。

乗り越えるための語り合いを

ただ私には気になっていることがあった。

「鹿瀬にはきれいな自然やおいしい食べ物がいっぱいあるのに、何かというと新潟水俣病のことが取り上げられる。俺たちは一生、下を向いて歩かなければならないのか」

数年前、地域おこしの取材で鹿瀬の青年を訪ねた時に言われたことである。若い人たちにそんな思いをさせたくない。乗り越えるためにも、阿賀野川流域全体できちんと新潟水俣病について語り合うべきではないか。

縁あってロバダンの末席に座する機会を得て以来、ずっとそのように願ってきた。

するとはじめは「禁句」と言っていた鹿瀬でも、何度か通ううちに、「今まで誰も自分たちの話をじっくり聞いてくれなかった」「昭和電工に勤めていた、それだけで犯罪者扱いされた」など「企業城下町」が抱えてきた苦〝しさについて話してくれるようになった。

様々な事情や悩み

中流域の五泉では特産の里芋を阿賀野川ブランドで売り出すのに、阿賀野川＝水俣病の印象があると売れないから「水俣病は禁句」の空気があったとの話が出た。「米が売れなくなる」「鮭も」。同様の事情は下流域からも出された。

その同じ下流域の別の地区では、「外から大勢の〝活動家〟が入ってきたため、どうしたらいいかわからず、被害者に寄り添えなかった」という被害者周辺の悩みが話された。

一方、新潟水俣病の被害が大きかった地区では被害者の苦しみが話題の中心だった。認定されると「カネ、いっぱいもろたろ」。裁判に出れば「そんげにカネほしいかね」。神経痛のように外からは見えにくい症状ゆえの「ニセ患者」呼ばわり…。

ロバダンの手ごたえ

地域に横たわるこうした「心のうち」をつなぐためのロバダンは始まったばかりだが、自分にとって新潟水俣病は何なのかと言葉にし始めている手ごたえは感じる。

それにしても話を伺っていると、合わせ鏡のようにおのれが見えてくることに気づかされる。勤務先をかばう。風評被害は嫌。羨望。嫉妬。無関心…。みんな自分にもあるなあと。

「オメさんも大変だね」

とまれ、まずはお互いがこんな風に言い合える阿賀野川流域をめざすためにも、ぜひ、みなさんもこのロバダンにご参加を！

阿賀野川に育まれた力

FM委員：金子　洋二

1968年生まれ。新潟市秋葉区（旧新津市）在住。NPO・地域づくりコーディネーター。
NPO法人新潟NPO協会副代表理事、NPO法人まちづくり学校理事。

ロバダンで流域を巡り、人々の話に耳を傾けて感じるのは、意外にも水俣病の悲惨さよりも人のおおらかさと芯の強さだった。新潟市松浜で出会ったのは、地域が一体となる阿賀野川ござれや花火に情熱を傾ける若手経営者たち。五泉市巣本地域のみなさんからは、きれいな水と豊かな土壌で育つ特産の里芋・帛乙女（きぬおとめ）にかける熱い夢を聞いた。

失われた「復興」のタイミング

新潟市津島屋のお母さんたちは面白おかしい昔話の合間に、昭和39年の新潟地震の思い出を聞かせてくれた。家も舟も津波で壊され、集落は壊滅状態に。当時は政府による支援制度も整っていない中、互いに助け合いながら自力で再建を果たした。近年相次いだ県内の地震・水害の被災地でも同様だが、大きな災害からの復興は時として地域の絆を強くする。

新潟水俣病が流域を襲ったのも新潟地震とほぼ同じ頃だった。不思議なことに、こちらの被災体験は忌まわしい過去として蓋をされ、発生の確認から40年以上経った今も、被害を口に出すことさえ憚られる空気が続いている。あまりにも長い時間が責任の追及に費やされ、一見、人々は手を携えて「復興」へと立ち上がるタイミングを失してしまったかのようだ。

意識しつつあえて口に出さない

それでもやはり私は、阿賀野川に育まれた人々のパワーに確かなものを感じている。地元の資源を活かした感性豊かな地域づくりが、企業・役場・住民団体などの多様な手によって、流域の各地で脈々と進められているのがその証拠だ。彼らの中には水俣病を意識しつつ、あえて口に出さない人もいる。口に出さずとも、その経験が持つ重大な意味が忘れられたわけではない。むしろ記憶のどこかにあるからこそ、人の絆や自然の大切さ、故郷の地域づくりを熱く語るのだと感じている。

ロバダン！が紡ぎ出したFM事業の方向性

～総合プロデューサーが見たロバダン！

炉端を囲むぐらいの顔が見える少人数で、流域の美味しい茶菓子など食べながら、気楽に談義し合える雰囲気づくりを大切にして始まった「ロバダン！」。本当に大勢の方々から、本音のお話や深いお話をうかがうことができました。

浮かび上がる新潟水俣病

流域の様々な人々と語り合うにつれ、新潟水俣病の捉え方や感じ方などが、地域や人によって実に様々であることに、初めて気づかされました。実は話したいことが沢山あるのに、それを聞いてくれる場がこれまでなかった、と訴える人々もいたぐらいです。こうした流域の人々の様々な見方を、ロバダン！を通じて一つひとつ丹念に拾い上げていくと、これまでの関係者の話や多くの報道からは伝わってこなかった「流域における新潟水俣病」の姿が、立体的に浮かび上がってくる思いがしました。

地域の光と影に向き合う

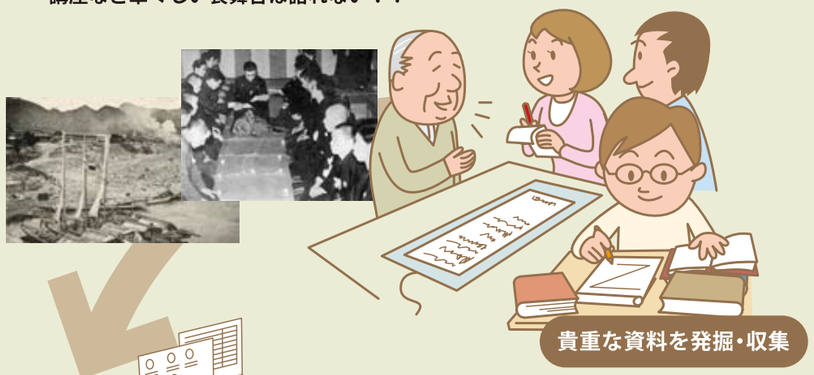
そこから、さらに一歩踏み込んで見えてきたこと。それはやはり、昔の輝かしい地域の歴史を誇るにしても、阿賀野川の恵みそのものの農産物を「阿賀野川ブランド」として自慢するにしても、ご近所で新潟水俣病を普通に語り合うにしても、まずは地域自体が、新潟水俣病に象徴される「地域の影」に向き合わないと、「地域が誇るべき光」を語ることすらためらいがちになる、という現状でした。

決して簡単なことではありませんが、ＦＭ事業では、今後も様々な取組みを通して「地域の光と影」に向き合い、それを地元の皆さんと一緒に何とか乗り越える試みを通じて、新しい流域づくりにつなげていきたいと考えています。

不定期連載　FM事業を紹介します！その①

「縁の下の力持ち」資料整備チーム

資料整備チームでは、日々、流域に眠る貴重な資料の数々を発掘し、整理・分析したり、電子化などの保存に努めています。一見地味に見えるコツコツ作業の毎日…。しかし、このチームの陰の活躍なくして、パネル展や講座など華々しい表舞台は語れない！？



■メンバー紹介

尽きせぬ好奇心でチームをグイグイひっぱる、FM委員の里村洋子さんを始め、日々資料の海と格闘している事務局のメグミ&アルバイトのタノン、地元の写真家・山口冬人さんなど、多彩なメンバーで資料整備に励んでいます。

これまで展開してきたパネル展や紙芝居、講座などは、資料整備チームが貴重な資料の数々を整理し読み解いた結果に負うところ大で、ＦＭ事業を陰で支える「縁の下の力持ち」ともいえます。

現在は3月28日の地域再発見講座に向けて、資料を整備中です。貴重な写真や文書などお手元にございましたら、ぜひご連絡いただけると幸いです！

3/28 開催

シリーズ 地域再発見講座「阿賀野川ものがたり」

第2回「ハーモニカ長屋から眺めた風景 ～鹿瀬・昭和電工・阿賀野川」

かつて、阿賀野川の上流には、大勢の人々が働く工場があった。
子どもを育て、雪掘りをし、夏祭りを楽しむ社宅の人々の暮らしもあった。
工場が生産する窒素肥料は食料増産をうながし、
有機化学製品は生活を便利にした。
私たちの誰もがこうした恩恵を享受してきた。
しかし、一方で、工場排水が阿賀野川の自然と人々に残した傷跡。
その光と影の記憶をどう未来へつなげるか、
当時の様々な資料と写真を通して考えてみよう。

写真提供：沖田信悦氏

ハーモニカ長屋と呼ばれた昭和電工の社宅で、高校卒業まで過ごされた沖田信悦さんをゲストに迎え、あの頃の企業城下町・鹿瀬を会場の皆さんと一緒に振り返ります。紙芝居「阿賀のお地蔵さん」の上演もお楽しみに。ぜひご来場ください。

日時●平成22年3月28日（日）午後1時15分～午後3時45分
会場●新三川温泉you＆湯 ホテルみかわ
東蒲原郡阿賀町五十沢2598番地 TEL0254-99-3677
定員●70名（先着順、定員を超えた場合はご連絡いたします）
参加費●無料　　申込締切●3月24日（水）
お問合せ●阿賀野川え～とこだプロジェクト事務局（TEL/FAX0250-68-5424）

3/20 まで

パネル展「草倉銅山の光と影」ひとまずラスト展示

狐の嫁入り屋敷へGO!

阿賀町の温泉施設等での巡回パネル展「草倉銅山の光と影」。本当に大勢の方々からご覧いただきまして、誠にありがとうございました。関係者の方々のご協力にも深く感謝申し上げます。おかげさまで好評をもちまして、今回の展示でひとまずフィナーレ。まだご覧いただいていない方は《狐の嫁入り屋敷》へぜひ！

日時●平成22年3月5日～ 3月20日 午前9時～午後5時 ※3月11日・18日休館
会場●狐の嫁入り屋敷（阿賀町津川3501-1 TEL0254-92-0220）

「阿賀野川え～とこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称 FM 事業) と言い、阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川え～とこだ！憲章（事業理念）

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。　（阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会）

編集後記

第2号はいかがでしたか？今回特集したロバダン！という試み。拒否されたら？どう進めれば？…などなど、最初は緊張&戸惑いの連続。しかし、流域の人々は優しく包みこんでくださいました。おかげで私たちがハッと気づかされるような本音の意見やさまざまな内なる思いをたくさん伺うことができました。本当にありがとうございました。ぜひみなさんのロバダンへのご参加もお待ちしています。

ご意見、ご感想、お宝情報もお待ちしております。第3号は来年度に発行予定。ご期待ください！

阿賀野川え～とこだより 第２号
発　　行：新潟県（2010年３月14日）
企画編集：阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会
〈事務局／〒959-2221 阿賀野市保田3866-1〉
TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川え～とこだ！ブログ」
まだまだ更新中
http://www.aganogawa.info/
がんばってます…。